

【症例報告】

自己血による胸膜癒着術が有効だった Ehlers-Danlos 症候群合併

気胸の 1 例

【著者名（会員番号）】

持田 香織，岡林 比呂子，今村 光佑，吉田 知栄子，増永 愛子，

坂上 拓郎

【所属機関名】

熊本大学病院呼吸器内科

要旨

症例は 17 歳男性． 両側気胸に対する手術を契機に血管型 Ehlers-Danlos 症候群(血管型 EDS)と診断された． 以後気胸を繰り返していたが， いずれも経過観察または胸腔ドレナージのみで軽快していた． しかし今回胸腔ドレナージ後も気腫が持続したため， 自己血による胸膜癒着術を 2 回施行し気腫を停止できた． 結合組織の脆弱性をきたす疾患特性から侵襲的処置を避ける必要があり， 血管型 EDS に伴う難治性気胸は治療選択肢が限られるが， 侵襲性が低い自己血による胸膜癒着術は安全に行える有効な治療と考えられた．

キーワード

血管型 Ehlers-Danlos 症候群, 気胸, 自己血, 胸膜癒着術

Vascular Ehlers-Danlos syndrome, pneumothorax, autologous

blood patch, pleurodesis

短縮タイトル

血管型 EDS に合併した難治性気胸の 1 例